

黄色の絨毯を堪能 !!



深田久弥

山の文化館だより

平成29年
冬号

深田久弥 山の文化館
〒921-0067
石川県加賀市大聖寺春場町十八
TEL (076) 721-3311
FAX (076) 721-1181



秋のひとつとき、山の文化館は黄色の絨毯を敷き詰めた様な幻想的な風景になりました。お越しいただいた方には「すてき!」と喜んで頂きました。この秋は、落ち葉の時期に大きな風が吹かず、ほとんどの葉が建物の周りの地面に降り積もったので、特に分厚い絨毯になりました。木に花が咲くほど降りはじめませんでした、一面真っ白になった山の文化館の写真も並べてみました。今度の秋、十一月半ばにはぜひお越し頂いて、この黄色いじゅうたんをご覧になって下さい。ホームページでも紅葉の情報をお伝えします。ご期待ください。

「白山の見える頂」

「写真とカシミール
3Dによる展望」

昨年北陸中日新聞に連載された桶川、西出両氏の「白山の見える頂」の文章と写真にカシミール3Dで作画した白山の画像を添えて展示しました。それに加えて、白山山頂からの三百六十度のパノラマを展示してあります。二月二十七日(月)まで会期を延長しています。



深田久弥山の文化館クラブ紹介

今年度の錦城小学校放課後子ども教室「深田久弥山の文化館クラブ」は全過程九回を無事終了しました。このクラブは、名称の変更等もありましたが、今回が十二年目になると言う長寿クラブです。

毎回約一時間のプログラムで行われています。内容は、錦城小学校の大先輩深田久弥さんについて知ろう、ということとDVDの観賞とお話。自然観察や歴史の勉強をしながらの観音山登山。深田久弥さんゆかりの地を訪ねたり、川舟体験もしました。郷土の山の話、錦城山登山、そして山の道具の勉強と盛りだくさんの内容でした。とりわけ、登山用のコンロなどを使い、湯を沸かしてココアを飲んだり、山の道具に触れる体験的プログラムが好評だった様です。



（講演に触発され）
御歩町一番丁を訪ねて

金沢に初雪が降った日、私たちはその当時久弥さん一家が住んで居られた金沢の東山の地を訪ねた。高辻氏の講演の中で話された「久弥さんがいらっしやった、或いは歩かれたその土地の空気を共にしたい」と言う言葉に強く感動したからであった。

その地は浅野川べりで、金沢三文豪の一人である徳田秋声の記念館から何ほども離れていなかった。緩み始めた雪の足元を気にしつつ、番地を訪ね歩くと「ここかな」という家の前に着いた。その家は瀟洒な洋風の建物であった。当時を偲ぶものは何もなく、一、二軒隣の家に古めかしい松の木とそれを案内する看板があったきりである。

とにかく浅野川の側のこのあたりに居られたのかなという思いを巡らしながら帰途についた。

高辻氏の「深田久弥の足跡探訪」という講演の中で探訪の地は十項目にわたって示されていました。



旧御歩町一番丁（東山一丁目）梅の橋界限

聖寺での句。②「北に遠ざかりて雪白き山あり」の静岡市大浜公園。これは平家物語の中で、平重衡が鎌倉に護送される途中での一節です。これを久弥さんが確認に行かれた。その場所を高辻氏もまた足を運んでおられます。今は山も見えないようですが、大浜公園から見た南アルプスの南部の山々ではないかと確認しておられます。

このように高辻氏は③雨飾山の項での糸魚川。⑤越後湯沢。⑥山の茜を顧みての未丈ヶ岳。⑦富山県滑川市。⑧弥彦山。⑨新潟県村上市など、どこまでも久弥さんを慕われつつ久弥さんの足跡があるところはどこまでも探訪されておられました。そしてこれから探訪を続けたいと。いずれにしても現地に行かねば分からないことがたくさんあるとも話されていました。

講演会参加者の中の一人として個人的に特に印象に残った雨飾山の章では山田旅館、時刻表、まるきち、いずみ屋、海に入った順など、その当時を彷彿させるような言葉が映像と共に想像でき、その上に高辻氏の穏やかな話し方が加わり、いっそう魅力ある講演となりました。

一時間三十分の限られた時間でしたが高辻氏が久弥さんの虜になったと言われた『山秀水清』をぜひ読まなくてはと思いました。

●間こう会予定

■二月十九日（日）午後一時半より

深田久弥山の文化館 聴山房
演題…加賀茶の歴史と取り組み
講師…吉田 和雄氏
（打越製茶農業協同組合組合長）

●久弥祭予告

■四月二十三日（日）午前8時より

枯淵駐車場特設会場
*大勢の皆様のご参加をお待ち申し上げます。式典終了後には、希望者で富十ヶ岳登山をします。山頂方位盤の久弥さんを訪ねたいと思います。

*詳細はホームページをご覧ください

●駐車場が新たに！

来館者用駐車場が大きくなりました。深田久弥山の文化館の向かい側の大きな駐車場が、新たに来館者駐車場として使用できるようになりました。バスも入ることができ、大変利用し易くなりました。ただいま案内看板を製作中です。

●編集後記

新しい年を迎え皆様にはお慶びのことと思います。漕ぎ出した舟の舵とり、今年も皆の力で海原を渡っていきたいですね。

また今年は白山開山千三百年、久弥さんのようにわが故郷の白山をいつも間近に仰ぎつつ、敬虔な気持ちを持ち続けたいものです。

K・Y